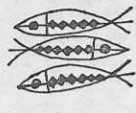




# 文化



## 四、石造遺物

(一) 三面石。橋寺礼堂の前。「右面左面面わわれの心の持ち方を現わしたものである」といわれる。

(二) 石人男女像。須弥山石。東京国立博物館の法隆寺宝物館の前庭にある。これも明日香村石神出のもの。

(三) 酒船石。数条の溝と凸所のある石。たがねの跡がある。わりとれた部分は築城に用いられたものであろう。油を精製するための設備、辰砂(朱)をこする石まはら星印(い)の跡もあるが、いまは定説がない。

## 謎の多い石造物

### 飛鳥断片

桑原守也

ため、あるいは酒造設備ともいわれるが、定説がない。

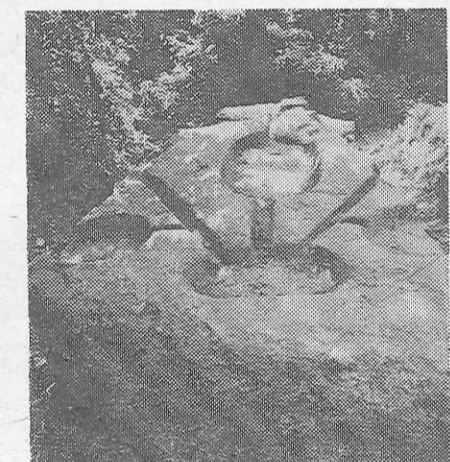
(四) 石造遺物。飛鳥川に流れていったとされる。飛鳥川は、昔都白川あたりの民家の庭に流れていたといわれる。

(一) 豊浦の石造遺物。豊浦(今)の周辺にある。海底の岩に海草がのびている。うなぎの鱗を半肉彫りした石材で、その側面は、いづかの岩を組合わせて一つの須弥山をなしている。その天井部にある。

(二) 豊浦の石造遺物。飛鳥神社の境内に多数ある。

### 五、南紀の飛鳥

(一) 南紀といわれている。ヤは大田四つ子の半島の南端にあり、三重、和歌山の両県に二郡ずつ分属している。表層の飛鳥は熊野川の上流、いわゆる北山の中にある。何の変哲もない山村であるが、産物をつかたも、郷愁の念ひとあわせて、先づかたは随分昔から住みついていた。飛鳥神社付近から祝部土器、土師器などが出土している。



定説のない酒船石 (近鉄提供)

いるが、これらの人ひとほどのよな経路で山なみ深いこの地に安堵するようになったものであろう。

神武(東征)は荒波津から大和に入られたといわれる。その経路は飛鳥、五郷、北山を経て吉野に出る。今でいう国道一六九号線を通ると、それが想像される。今日においても冬期、伯母峠付近は積雪深く、車道はチェーンを巻いても走行不可能な場合が多い。往古人跡未踏の地を越えたとは考えられない。従って飛鳥は、飛鳥の命により不老不死の薬(天台鳥

薬)を求めて上陸したと伝えられる。徐福の墓もある熊野川下流に、その源を築き、海神族が宗廟として海部と木曾川を通航して山中に安曇村を形成したケースに似て、熊野川を源とする川(五郷)飛鳥へ入り込んできたものと想像される。あるいはまた、部分的には木ノ本から飛鳥へダイレクトにきたものもある。

(二) 大和文化圏と熊野文化圏の交流は右のような事情で余程の時間的経過が必要であったとおもわれる。

(三) 深奥秘抄(二一五五)に「城を築くべし」となり、城

## 近江路散歩

近江の国が京都の隣国として豊かに暮らしてきた理由に、琵琶湖の湖と湖東平野に育った伝説がある。歴史といえなく、いまでも味わいの深い伝統工芸のあふれる。そこで、近江の旅を楽しむ人のために玉石とらまえて、概観してみよう。

## 暮らしを支えた産業

渡辺守順



大津ではあまから大津絵とか、大津そば、大津焼がある。大津絵は寛永のころから東海の通分あたりで売られた仏画で、単調な色彩と力強い線の手法がたいへん素材でユニークな味もあって人気を博している。

立派な観光土産品として有名で、進取山の大津側の登り口に組むもの伝統を守る太田さんが住んでいて、江戸中期に膳所藩の心で、江戸中期に膳所藩の保護によつてはじめられた美しい組もが生産されている。しつこくとした風格、たいへん高級なものである。

また、大津市の桐生に伝承する

草津市には模倣紙がある。和紙に色紙(岩絵)をぬり、てみあげ、各種の美しい文様を出して、軸・横・衝立などに利用すると、じつに高貴である。

甲賀へ行く、信楽焼が有名。膳所藩士がはじめた草木染めで、風格がある。近江八幡市には秀次八幡ができたころは、め



近年おとろえ新しい観光として魅力がある。

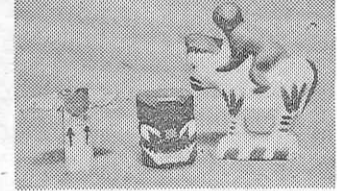
## 郷土の玩具

### いまなお民衆のなかに

木下

☆長崎の古賀人形は、文禄年間、京都の土器師が滞在中にその技術を教えたのがはじまりといわれ、最初は農家の副業として土器を作るかたわら人形製作へと移ったもの。馬のり(写真)は古賀型。

☆福岡県太宰府天満宮で行なわれる「かき」に、



かき(資料提供・全修協中研修部)

の人形で、むかし唐に馬好きがな伯業とい入がいて、一びきの猿がすぼい馬と遊んで、のをなみで欲しくなり、奇略をめぐり、木の馬を作ったことを知り、かきんだといひ故事がある。

☆木下(写真中央)は大分県別府村のもの。朝鮮遷徙に加った大友氏が、天下大將軍の標から思いついて作らせたものといふ。六角柱に切り込んだその表情は、驚けにみまわしい。

☆福岡県太宰府天満宮で行なわれる「かき」に、

なにかと、境内で売られている。(写真左)火難除けとして、いまなお民衆のなかに生きていて。(資料提供・全修協中研修部)

## 補助活動進む

京都市文化観光資源保護財団

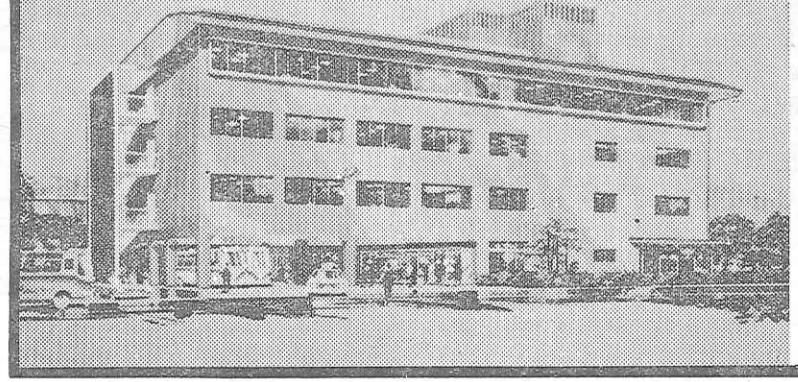
目標達成も間近か

【京都】京都の古文化財や伝統行事などを守るため京都市文化観光資源保護財団が設立されたのは、四十四年十二月のこと。基金もこの五月には九億二千万円が集まり、目標の十億円資金達成も間近かに迫った。

四十七年度には、養蚕、祇園祭、大文字五山送り火、時代祭りなど十件を対象に千七百六十五万円、随心院本堂修繕修理など五十六件に千四百八十五万円、雅楽、狂言、六斎念仏など伝統行事や芸能に四百二十万円のほか、景観保護費三件、松毛虫駆除などに百五十万円合計百三十三億八千八百一十二万円が支出された。

同財団では京文化の遺産を守るため各方面の協力を呼びかけている。問い合わせは京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内(財)京都市文化観光資源保護財団事務局。電話(075)761-0020。

## 47年3月1日オープン 空も澄む近江路の旅



- 〈収容〉 800名様
- 〈食堂〉 550名席
- 〈浴場〉 1時に150名
- 〈設備〉 全館冷暖房
- 〈防災〉 諸施設完備

修学旅行の専用ホテル

大津市におの浜3丁目1-4

## びわ湖門-リスト-ホテル

《予約受付中》

電話 大津(0775)24-2321(代表)  
大津(0775)23-0408(直通)